

うさぎとかめ通信

上越市立高田幼稚園

(週刊：園長室だより) 106周年

令和4年6月16日

第152号

「思い→体験→表現」は、幼児・児童・生徒に一貫する、遊び・学びの基本です。

【速報：6/10 飼育しているカナヘビが卵を4つ生みました。孵化に真剣に取り組みます】

子どもの姿から

【白い卵は飼育箱の右奥隅です】→

11日(土)に、フリー参観・親子活動を開催しました。

保護者の皆様のご参加に感謝します。

まつ組の親子活動は「絵本の表紙を作ろう」です。好きなものから絵本の表紙を構想して、立体的で素敵な表紙を作りました。

うめ組は「ぐりかぐらを作ろう」です。中川李枝子さんと山脇百合子さんの絵本『ぐりとぐら』シリーズの中の、かわいい野ねずみの双子ができました。

もも組は「好きな乗り物を作ろう」です。自家用車や働く車など、デザインやボディカラーにこった自慢の乗り物ができました。

どれも力作ぞろいで、きれいで見応えがあります。



園庭・園舎から

【園庭に線路を敷設しています】→

8日(水)に、うさちゃんくらぶを行いました。

今年度初の開催でした。多くの皆様からご参加いただきまして、ありがとうございます。まつ組の皆さんがアンパンマンのダンスをステージ上で披露し、みんなでフロアで元気に踊りました。パネルシアターと園舎内の観光ツアーの後は、園児とともに園庭で遊んでもらいました。楽しそうでした。今回もTKレンジャーの皆様にご支援いただきました。うさちゃんくらぶの大切なパートナーです。感謝します。



キーワード

【幸運の五つ葉のクローバー】→

〇ウェルビーイング(持続的で多様な幸せ)

文部科学省は『幼保小の架け橋プログラム』の策定を進めています。その中の「架け橋期の子供の学びや生活に関する視点」の1つに、「特別な配慮を必要とする子供(障害のある子供や外国人の子供など)を含む全ての子供の可能性を引き出すため、ウェルビーイングを保障する意識を持ちましょう」があります。架け橋期とは、5歳から小学1年生までの2年間のことです。架け橋期の子ども一人一人が、身体的、精神的、社会的全てにおいて持続的で多様な幸福で満たされている状態を目指します。



幼稚園においては、子ども一人一人のウェルビーイング(持続的で多様な幸せ)を実現させるために、幼稚園教育要領等を基盤とし、幼児理解に基づいて計画、実践、振り返りを行い、よりよい教育を創造するという、当たり前のことを着実にやることと考えます。つまり、全ての子どものウェルビーイングを高めるカリキュラムの編成・評価・改善が大切となります。具体的には、①より多くの子どもたちに選択の自由があること、②子どもの持ち味を把握し生かせる体験ができること、③小さなことでも言葉や思いが形になって進んでいく成功体験、④集団と個のバランスが取れている状態、を目指します。(参考：文部科学省：幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会のサイト)